

# 第1・2学年 国語科学習指導案

平成21年11月24日(火)4校時

1. 単元名 『のりものずかん』をつくろう  
教材名 「いろいろなふね」(説明文、東京書籍1年下)
  
2. 単元の目標
  - 乗り物に興味・関心をもって教材文を読んだり、他の乗り物について進んで調べたりしようとする。(関心・意欲・態度)
  - 自分の調べた乗り物について発表したり、友達の発表を聞いて感想を持ったりすることができる。(話すこと・聞くこと)
  - 乗り物の特徴に沿って、順序を考えながら説明する文章を書くことができる。(書く)
  - ◎ 乗り物の役目や工夫を絵や写真、叙述と結びつけて読み取ることができる。(読む)
  
3. この単元で育てたい情報活用能力
  - ① つかむ 活動の見通しをもつことができる。  
学習に対して興味をもち、知りたい乗り物を決めることができる。
  - ② 調べる 図鑑等の図書資料を利用し、調べることができる。  
必要な情報を正しく記録することができる。(抜き書き、絵を使った記録)
  - ③ まとめる 学習したことをまとめる。(絵や文章のまとめ方)
  - ④ 伝え合う 友達同士伝え合う。一冊の『のりものずかん』を作る。

## 4. 単元設定の理由

### (教材観)

本単元は、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み取るとともに、説明のための基本的な文型の使い方を学び、それを使って書いたり話したりすることができるようになることを主なねらいとしている。

本単元で取り扱う教材文は、4つの船について説明した文章である。文全体は「話題提示」「4つの船の例」「まとめ」という構成で成り立っている。4つの船のところでは、それぞれの船の役目、工夫(構造、整備)などを紹介している。4つの船はどれも3文で同じ組立で説明してあり、子ども達にとっては抵抗が少なくわかりやすい文である。

さらに一人ひとりが興味をもった乗り物について、図書資料で調べ、学んだ説明の仕方を使って『のりものずかん』にまとめ、発表するという学習活動につながっていく。

### (児童観)

本学級は、1年生男子2名、女子1名、2年生男子2名、女子2名の計7名の複式学級である。7人とも明るく、学習にはやる気をもって前向きに取り組んでいる。また、2年生が1年生に優しく教えてあげるほほえましい様子もよく見られる。

7人とも朝の読書タイムでの担任による読み聞かせを心待ちにし、喜んでお話の世界に浸って聞いている。

一方、「読書が好きですか?」という質問に「とても好き」と答えた子どもは4人、他3人は「あまり好きではない」と答えている。また、ふだん比較的長い文の本を読む子どもや、図鑑など絵や写真が多い本を読む子どもなど読書傾向は様々である。このことから、読書に対しての個人差は大きく、個別の指導や声かけが必要であると考える。

1年生は、1学期に初めて学習した説明文「どうぶつのはな」では、クイズ、動作化を取り入れ、楽しみながらそれぞれの動物の鼻の特徴を読みとることができた。2年生は、これまでに「どうぶつのはな」「たんぼぼ」「ビーバーの大工事」を説明文として学習してきた。「たんぼぼ」「ビーバーの大工事」では、「他の生き物の本を読んでみよう」という本の読み広げを行った。従って、1，2年生とも本単元のような図書資料を使っての調べ学習は国語科では初めてである。

乗り物については、興味や関心がある子どもとそうではない子どもがいると思われる。どの子どもも新しい発見をし、楽しみながら教材文や図書資料を読むことができるようになってほしいと考える。

#### (指導観)

単元の初めに子ども達に「『のりものずかん』をつくろう」ということを知らせ、見通しをもって主体的に取り組むことができるようにしておく。自分の興味のある乗り物のことを調べ、乗り物図鑑カードに書き、最後には、学級で1冊の『のりものずかん』ができるという目的意識をもたせることで、さらに意欲的に取り組むと考える。また、乗り物が出てくる本の読み聞かせをしたり、生活科の学習で乗り物調べをしたりなど乗り物に対して興味・関心がもてるようにしておく。

教材文を読み取っていく学習では、4つの船についてそれぞれの船の役目、構造が述べられていることから、サイドラインをひいたり、付箋を使ったりしながら共通する文章構成に気付かせたい。また、ワークシートを使ってまとめる時の手助けとしたい。

単元後半では、自分が興味・関心をもった乗り物について、図書資料から調べ、乗り物図鑑カードにまとめ、全校のみんなに発表し伝えていく学習を取り入れている。

まず、自分が調べてみたい乗り物を決める。生活経験などから好きな乗り物を選ぶ子ども、身近にある乗り物を選ぶ子ども、図書資料から新たな発見をしさらに調べてみたくなる子どもなど、一人ひとりの乗り物の選び方も違うであろう。この時、一人ひとりの思いに寄り添い、子ども達の「調べたい」という意欲を大切にしていきたい。また、子ども達にいろいろな図書資料に触れさせるため、学校図書館ボランティアと連携し、公立図書館などからもさまざまな図書資料を用意しておきたい。

本時は、図書資料の中から自分が選んだ乗り物についての必要な事柄（乗り物の役目と工夫）を見付ける学習である。図書資料を読んで調べていく際の視点としては、教材文で学習した時と同じように乗り物の役目と工夫（構造、整備）を見付けながら読ませていきたい。しかし、図書資料には、さまざまな文章構成のものがあると考えられ、子ども達が読み取っていくのには個別の支援が必要となることが考えられる。「この乗り物の仕事はなんだろう」「この乗り物のびっくりしたところはどこ？」などわかりやすい言葉で聞き返ししながら、役目と工夫を読み取ることができるよう学校図書館ボランティアと共に支援していきたい。また、読み取ったことは「みつけたよカード」にまとめるようにする。

「みつけたよカード」では、教材文で学習した基本文型にそってまとめることが望ましいが、場合によっては抜き書きで基本文型にあっていなくてもよいことにする。それは、形にこだわらず、調べ学習の楽しさをまず知ってほしいからである。「みつけたよカード」にまとめて整理しておくことで次時の「乗り物図鑑カード」づくりに生かしていきたい。

できあがった「乗り物図鑑カード」を集め、1冊の『のりものずかん』をつくる。『のりものずかん』ができたところで、学び合い高め合う集団づくりとして、全校児童の前での発表会を行う。そして、感想を出し合うことで満足感や達成感が味わえると考えられる。

このように課題を決め、情報収集をし、調べてまとめ、発表し伝え合う学習を組むことが一人一人の子どもの考える力を伸ばす授業につながると考えている。

5. 単元の指導計画および評価計画（全13時間）

次	時	学習活動	☆情報活用能力	評価	☆情報活用能力
一 つかむ	1	○乗り物のお話の読み聞かせを聞く。 ○どんな乗り物を知っているか話し合う。 ○船に乗ったり見たりした経験について話し合う。 ○教材文を通読する。		・乗り物に興味をもち、教材文を読もうとしている。 (関心・意欲・態度)	発言 行動観察
	2	○教材文を読んで感じたことを話し合う。 ○『のりものずかん』作りの学習の計画を立てる。 ☆ 見通しをもつ		・段落に分けて読むことができる。(読むこと) ☆学習に見通しをもつことができる。 (関心・意欲・態度)	発言 行動観察
	3	○客船について読みとる。 ・役目、工夫について文の構成をつかむ。		・客船の役目や工夫について読み取ることができる。(読むこと)	ワーク シート
	4	○フェリーボートについて読み取る。 ・客船についての説明文と比較し、共通点を見付ける。		・フェリーボートの役目や工夫を読み取ることができる。(読むこと)	ワーク シート
	5	○漁船について読み取る。		・漁船の役目や工夫を読み取ることができる。(読むこと)	ワーク シート
	6	○消防艇について読み取る。		・消防艇の役目や工夫を読み取ることができる。(読むこと)	ワーク シート
二 調べる	7	○好きな乗り物を決めて、いろいろな本の中から調べ学習に使いたい本を選ぶ。 ☆課題を決める 情報を集める		☆好きな乗り物を選び、その乗り物についての図書資料を進んで読もうとしている。 (関心・意欲・態度)	行動観察
	8	○選んだ乗り物について『のりものずかん』を作るための必要な事柄を調べ(本時) ☆情報から調べる		☆乗り物の役目や工夫について書かれているところを見付け、記録することができる。 (読むこと)	行動観察 みつけたよカード
三 まとめる	9	○調べたことを『のりものずかん』にのせる乗り物図鑑カードにまとめる。		☆乗り物の役目や工夫を基本文型にあてはめてまとめることができる。 (読むこと)	乗り物 図鑑カード
	10 11	☆まとめる			
四 伝え合う	12	○乗り物カードの発表会をする。 ・話し方、聞き方の約束をする。 ☆発表する		☆自分が驚いたことを相手に分かりやすく伝えるよう発表している。 (話すこと) ・相手の発表をしっかりと聞き感想をもつことができる。(聞くこと)	行動観察 発言
	13	○『のりものずかん』を完成する。 ・乗り物の仲間わけをするなどして、まとめる。 ☆活用する		☆『のりものずかん』を作るため、乗り物図鑑カードの情報を分類している。(読むこと)	発言 行動観察

## 6. 本時の学習

### (1) ねらい

- 1年 ・自分の選んだ乗り物の情報を図書資料から見付け、「みつけたよカード」に記録することができる。
- 2年 ・自分の選んだ乗り物の役目や工夫を図書資料から見付け、「みつけたよカード」に記録することができる。

(読むこと)

### (2) 展開

学習活動と予想される児童の反応	支 援
<p>1. 本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     じぶんがえらんだのりもの                      やくめやくふうをみつけよう                 </div> <p>2. 「みつけたよカード」の書き方がわかる。</p> <p>3. 選んだ乗り物について図書資料から調べる。</p> <p>4. 選んだ乗り物の役目や工夫を「みつけたよカード」に記録する。</p> <p>5. 本時を振り返り、次時の学習活動を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動への見通しをもたせ、目的意識を高めるようにするため、「みつけたよカード」や次時でつくる「乗り物図鑑カード」の例を示す。</li> <li>・「いろいろなふね」の学習を思い出し、役目、工夫について確認する。</li> <li>・本の抜き書きをする場合には、出典を書かなければならないことをおさえる。</li> <li>・用意しておいた図書資料には事前に目を通しておき、役目や工夫が書かれている部分を把握しておく。</li> <li>・1つの乗り物に決められない子どもには話を聞き、一番調べたい乗り物一つを決めるよう声かけをする。</li> <li>・図書資料がなかなか読めない子どもには、寄り添いわかりやすい言葉で聞き返しながら一緒に読むようにする。また、その子どもの読む力等の実態に合った本を紹介する。(図書館ボランティアの協力を得る。)</li> <li>・調べる意欲を大切にするため、まとめかたが基本文型に合わなくても抜き書きでもよいことにする。</li> <li>・役目や工夫がまとまらない子どもには、「この乗り物のお仕事は何だろう？」などわかりやすい言葉で聞き、考えさせる。</li> <li>・調べる活動の感想や乗り物について分かったことなどを発表しあい、次時へつなぐようにする。</li> </ul>

### (3) 本時の具体的評価

	十分満足できる子どもの姿	おおむね満足できる子どもの姿	支援を要する子どもへの手立て
1年	乗り物 の役目や工夫を見付け、「みつけたよカード」に記録することができる。	乗り物の情報を見付け、「みつけたよカード」に記録することができる。	わかりやすい言葉で聞き返しながら図書資料と一緒に読んでいく。
2年	いろいろな図書資料から情報を見付け、まとめて記録することができる。	乗り物の役目や工夫を見付け、「みつけたよカード」に記録することができる。	わかりやすい言葉で聞き返しながら図書資料と一緒に読んでいく。

### (4) 研究の視点

- ・「みつけたよカード」は、必要な情報を見付けるための視点となり、自分が選んだ乗り物の情報(役目や工夫)を容易に整理するために有効であったか。